教科（ 公 民 ） 科目（ 現 代 社 会 ） 単 位 数（ 2 ）

類型（ 共通 ・ 文 ・ 理 ） 履修規定（ 必修 ・ 選択 ）

年間目標	教科書・副教材等
1 人間尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。 2 現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、人間としての在り方生き方を考える力の基礎を養う。 3 平和で民主的な社会生活を実現、推進する良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。	1 教科書 「改訂版 現代社会」 数研出版 2 問題集 「現代社会ワークブック」 高教研地理歴史・公民部会公民部門編 3 その他 「最新図説 現社」 浜島書店 「現代社会整理ノート」 数研出版

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
1学期	4 5	第１編 現代の社会と人間 1 私たちの生きる社会 （8） ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・科学技術の発達と生命 ・高度情報化社会と生活	・現代社会の諸課題について、「幸福、正義、公正」の観点から課題を探究する学習を通して、現代社会についての関心を高め、いかに生きるかを主体的に考える。	・現代社会の諸課題を考察するために必要な基本的枠組みを理解できたか。【知識・理解】【資料活用の技能】 → 環境、生命、情報をめぐる問題 ・多面的・多角的視点で、自主的・意欲的に取り組めたか。【関心・意欲・態度】 ○ １学期中間考査
	6	2 青年期と自己の形成 （8） ・青年としてのあり方生き方 ・先人の生き方考え方 ・日本人としての自覚	・現代社会の特質や社会生活の変化を理解した上で、青年期の持つ意義や自らの生き方について自覚を深める。	・現代社会における青年期の意義や自らの生き方について、意欲的に考察できたか。【思考・判断・表現】【資料活用の技能】 → 青年期の意義、先人の生き方、日本人としての自覚
	7	第２編 現代の政治と法 1 個人の尊重と法の支配（8） ・民主政治の基本原理	・民主政治の基本原理に基づき、国民主権や基本的人権の充実、発展が民主政治の究極の目標であることなどについての認識を深める。	・民主政治の基本原理を理解できたか。【知識・理解】 → 基本的人権、国民主権、権力分立、法の支配と立憲政治
		・日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法の平和主義を理解し、日本の安全と世界の平和の維持との関連について認識を深める。	・日本国憲法の基本原理を理解できたか。【知識・理解】【資料活用の技能】 → 日本国憲法の成立、基本的人権と公共の福祉 ・平和主義の原点及び現状と課題について認識できたか。【思考・判断・表現】 → 自衛隊と憲法９条、文民統制
		2 現代の民主政治と政治参加の意義 （10） ・日本の政治機構	・我が国の国会を中心とする民主政治の仕組みを理解し、主権者としての自覚を培う。	・諸外国と比較しながら、日本の権力分立制を理解できたか。【思考・判断・表現】 → 議院内閣制と大統領制、二院制と衆議院の優越、違憲法令審査権 ○ １学期末考査

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
2学期	8 9 10	・政治参加と民主政治の課題	・地方自治の本旨を理解する。 ・民主政治における世論形成と国民の政治参加の意義を理解する。 ・主権者教育を通して、国家や社会のあり方について考え、その実現に向けた自らの責任について理解する。	・地方自治の原理を理解し、政治参加の意義について考えることができたか。 【知識・理解】【資料活用の技能】 →　団体自治と住民自治、政権交代、選挙権拡大、世論操作
		3　国際政治の動向と日本の果たすべき役割　(10) ・国際政治の動向 ・国際政治の課題と日本の役割	・戦後の国際社会における諸問題と、その問題解決のための取組について理解する。	・国際社会における日本の役割や、国際社会の一員として我々が何をすべきか考えることができたか。 【思考・判断・表現】 →　国際法、集団安全保障体制、国際連合、国境、領土問題、核兵器 ○　２学期中間考査
	11 12	第３編　現代の経済 1　現代の経済社会と経済活動のあり方　（8） ・経済社会の変容と現代の企業 ・市場機構と政府の役割	・現代の経済社会の基本原理についての理解に基づいて、経済主体としての個人や企業の社会的責任について考える。 ・公的部門や金融機関が経済の安定に果たす役割を理解する。	・資本主義経済の特徴と市場経済の原理について理解できたか。 【知識・理解】 →　価格の自動調節機能、市場の失敗、寡占化と管理価格、外部不経済、企業の社会的責任 →　資源配分、所得再分配、景気安定、マネーストック、信用創造、公開市場操作 【関心・意欲・態度】 ○　２学期末考査
3学期	1	2　日本経済の進展と国民生活　（8） ・日本経済の進展と変化 ・豊かな生活と福祉の実現	・現代日本の産業構造の変化や動向について、国民所得統計などを利用し理解を深める。 ・労働問題、環境問題、消費者問題の構造を理解し、その解決について国民福祉の観点から考える。	・国民所得の意味や戦後の経済発展の要因などを理解できたか。　【知識・理解】 →　経済成長、高度成長から安定成長へ ・日本経済の現状と課題について認識できたか。　【知識・理解】 →　日本的雇用慣行の動揺、汚染者負担の原則（PPP）、消費者保護
	2 3	3　国際経済の動向と日本の果たすべき役割　(10) ・国際経済の動向 ・国際経済の課題と国際協力	・国際経済の仕組みや発展途上国が抱える諸問題、国際協調の重要性を理解する。	・国際協力の在り方や国際経済の中での日本の役割を自分自身の問題として考えることができたか。 【思考・判断・表現】 【資料活用の技能】 →　経済のグローバル化、貿易摩擦、地域的経済統合、南北問題、人口・食料問題 ○　学年末考査
評価の方法	1　各学期の評価は、定期考査（１・２学期は中間・期末考査の平均点、３学期は学年末考査）と、平常の学習活動の評価とを総合して行う。 2　平常の学習活動に関する評価は、①学習への関心・意欲・態度、②ノート、ワークブックなど授業や家庭での学習記録、③長期休業中の課題への取組状況などを総合して各学期末の評価に１～２割程度加味する。 3　学年末の評価は、１・２・３学期の成績の平均で行う。			

○　現代社会の学習法

1　基本的な心構え

「現代社会」の目標は、「人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し、公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」ことである。中学校の公民的分野の基礎に立って、現代社会をより広く深く科学的に認識し、自立した一市民として、また日本国民の一員として活躍できるようになることを目指している。

現代では、情報化、国際化などの進展によって、社会状況が大きく転換しつつある。このような時代に生きる私たちには、社会的事象を客観的に分析して理解するとともに、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から課題を設定して、現代社会の多面性に着目しながら主体的に考察し、公正な判断力を養うことが期待されている。

2　学習の方法

⑴　予習について

重要語句の意味や定義に注意しながら教科書を通読し、疑問点をチェックしておくことが大切である。資料集の関連記事についても目を通しておこう。（資料集は知識のエッセンスであり、小論文などの参考資料としても活用できる。）

⑵　授業について

ア　予習内容と授業で扱われた内容を比べることにより、各単元のポイントが分かるはずである。問題の本質がどこにあるかを常に考えながら、授業に自主的・主体的に参加することが重要である。

イ　ノートを工夫して早く自分のスタイルを確立しよう。板書事項を書き写すことは最低限しなければならない。教師の解説をメモしたり、必要に応じて教科書や資料集から引用したりするなどして、自分流のノート作りを心掛けよう。

⑶　復習について

ア　教科書・ノート・資料集などを見直し、配付されたプリント類は、その都度ノートに貼付する習慣を身に付けよう。受け取った情報を精選し仕分けして保存できる「情報処理能力」が求められている。

イ　授業で理解できなかった箇所については、授業の後で質問しよう。さらに興味のある事項については、市販の用語集などで調べてみるとよい。

⑷　読書などについて

ア　毎日短時間でも新聞に目を通す習慣を身に付けよう。授業に関連したり、自分が興味を持ったりした新聞記事を、日付をメモして継続的に切り抜いておくことを勧める。

イ　関心のあるテーマについて各出版社の「新書」などを読むことで、自分の内面世界を広げていくことも高校時代に必要な作業である。